

参考資料2 基礎調査報告書での「立地のあり方」(第1回懇話会で資料7として提示)

<文化政策の視点>

■楽都仙台の「文化芸術のための拠点施設」、「多様な文化芸術に触れられる場」、「広域的な集客力が高い施設」などを実現できる立地

○ 文化芸術振興を進めていく上で望まれる、立地のあり方について想定した。

①質の高い多様な文化芸術に、誰もが触れることができる

- ・公演・鑑賞の場として東北を代表する、中核的な役割を果たす
- ・国内外の質の高い、多様な文化芸術が行われる拠点となる
- ・仙台国際音楽コンクールや全国大会、東北大会など大型文化事業が適切に運営できる
- ・誰もが気軽に来館でき、多様な文化芸術と触れ合える

②誰もが創造・創作・表現活動を行うことができる

- ・仙台の個性ある文化芸術を創造・発信する
- ・文化芸術活動を育み、創造のすそ野を広げていく
- ・誰もが創造や表現の歓びを知ることができる
- ・体験や学びを通じ、様々な活動を行うことができる

③広域からも様々な人が訪れ、多様な文化芸術に出会うことができる

- ・文化芸術の交流、人の交流から新しい仙台の文化を生み出していく
- ・常に何かが行われ、誰もが訪れたいくなる
- ・広域的な集客力が高い
- ・まちに文化芸術が広がっていくような仕掛けがある

<まちづくりの視点>

■文化芸術の持つ力を活かす「新しいまちづくりの拠点」、「交流と賑わいを創る場」、「都市の魅力を高める場」などを実現できる立地

○ 文化芸術の波及効果をまちに発揮していく上で望まれる、立地のあり方について想定した。

①まちづくりの核となり、まちの回遊性を向上させ、まちを活性化させる

- ・新しいまちの魅力あるスポットとなる
- ・他の魅力あるスポットと連携し、回遊性の向上に寄与する
- ・文化芸術の力とその波及効果により、まちを活性化させる

②全ての人に開かれ、人が人を呼び、交流と賑わいを創る

- ・広域から多様な人々が訪れ、交流人口を拡大する
- ・来館者が宿泊や飲食、観光やショッピングなど、仙台のまちを十分に楽しむことができる
- ・まちに開かれ、誰もが自由に利用できる

③市民が誇りと愛着を持つ場として、仙台の都市の魅力の一つとなる

- ・市民が誇りに思い、愛着を持つことができる
- ・仙台を代表する、文化芸術のユニークベニューとなり、人々を惹きつける
- ・楽都・劇都といった都市イメージを発展させ、より一層魅力あるものとして発信する